いのち輝く人生 やまべ社協

第 53 号
発　行
山辺地区社会福祉協議会
事務局
山辺公民館内
TEL 0284(71) 0516

すなおな心（はい）　反省の心（すみません）　謙虚な心（おかげさま）
奉仕の心（私がします）　感謝の心（ありがとう）　山辺地区日常五心

第20回 足利市民福祉大会 開催

幅広い地域福祉活動に共感が溢れる

恒例の足利市民福祉大会が11月8日、市と市社協等7つの福祉団体の主催10団体の後援でプラザにて開催された。

本市では平成11年に福祉都市宣言がなされ、すべての人が相互の信頼と連帯を基本に、関係機関との連携を深め、ボランティア精神を発揮して、共に支えあえる福祉社会実現の取り組みに参加することを確認、人にやさしいまちづくりの推進に努める本年の大会宣言を採択し、功労者表彰が実施された。

当地区としては地域福祉功労で市長表彰1名、市社会福祉協議会会長表彰3名が受賞した。

足利市長表彰

［地域福祉功労］

小池光代さん（堀込町）
老人給食ボランティア21年継続中。運営委員・班長を歴任、常に委員の中核として活動、又、地域の福祉協力員としても活動している。

足利市社会福祉協議会長表彰
［地域福祉功労］

吉住知子さん（借宿町）
老人給食ボランティア11年、運営委員や副班長を歴任し、会の円滑な運営に貢献している。又、福祉ボランティアとしても活動している。

足利市社会福祉協議会長表彰
［地域福祉功労］

亀井　操さん（朝倉町）
山辺子育てサロンの設立及び初代責任者として、リーダーシップを発揮、現サロンの隆盛に貢献。現在も主力スタッフとして活動中。

足利市社会福祉協議会長表彰
［地域福祉功労］

稲垣知子さん（借宿町）
山辺子育てサロンの設立準備から参画、経験を生かして楽しく和やかなサロンの雰囲気を作り参加者をリード。現在も主力スタッフで活動中。

同大会の他分野での山辺社協の受賞者は、老人クラブ育成功労として中川町の蓼沼しげ子さんが老連会長賞を受けた。蓼沼さんは現在も老人給食委員であり、過去に地域福祉功労として市社協会長・市長表彰を受賞している。

山辺子育てサロンのご案内

毎月第1金曜の午前中、
八幡こども館にて開催中。

平成28年度は
4/8, 5/6, 6/3, 7/1, 9/2
10/7, 11/4, 12/2, 2/3, 3/3

歯医者さんの検診や出前保育など毎月楽しく役立つ企画を準備しています。
●ご参加をお待ちしています。●

山辺南部の里を巡ってふれあいハイキング

ふるさとの自然と歴史にふれあい、地元に暮らす子供からじいちゃんばあちゃんまで三世代が、ともに和気藹々とふれあい交流しながら地元を歩く当社協の「ふれあいハイキング」、今回は中学生を含め56名が参加、栗原事業委員長の労作になる詳細なテキストを片手に、山辺南部から矢場川地区へと歩いた。

宝性寺本堂の前で

まず堀込薬師宝性寺へ。本堂へ上がってご本尊を拝しながら住職より寺の謂れや戦時中の学童疎開等の話を伺う。境内では堀込源太や堀部お幸さんの史跡を見て、次の藤本町へ。

観音山古墳では地元の市文化財愛護協会理事の原島明さんに解説を頂く。古墳時代前期の四世紀中頃の、大型前方後方墳（全国五位の規模）で、国指定史跡となっている重要なものとのこと。墳丘から見る眼下の田園風景は正に「毛（穀物）の国」そのもので、千七百年の悠久の時の流れにしばし思いを馳せる。

その昔は渡良瀬川の本流とも言われる矢場川の土手から矢場川公民館へ出て一休みしてから南大町の芋の森神明宮へ。

ここには地名の基の石芋伝説や10世紀の平将門の討伐に関する伝説、弘法大師由来の湧水池があり、池には天然記念物の川藻がある。

晩秋の陽射しの中でゆっくり昼食をとってから山辺公民館へ戻る。中学生に持ってもらったクリーン運動のPE袋は沿道のゴミで一杯になっている。

普段身近な里でもちょっと脇に入ると知らないことが多く、参考になり、参加の人たちとの和やかな交流も図れ、有意義なふれあいの一日であった。

第7回 山辺の今昔譚

「渡良瀬川の流路の変遷」

栗原　収氏

山と川のある町足利市。現在の渡良瀬川は市のほぼ中央、山辺地区の北側を、西から東へ流れている。

渡良瀬川は約五万年前までは現在のみどり市付近から南向きに深谷市方向へ流れ、利根川に合流していた。

中世頃は下流部は現在の江戸川の流路に近く、利根川とほぼ平行して東京湾に向けて流れていたといわれる。中流のここ足利付近は現在の矢場川が渡良瀬川の本流であり、板倉町付近は古くは大曲・細谷付近（館林との境界）を蛇行しながら東へ流れて行き、藤岡台地の縁に当たって向きを変え南下しており、上野・下野の国境（古い国境）はその当時の川だったとされる。

では、この古い流路はいつ頃から浅間山の北を通り岩井山の南へ抜けるようになったのだろうか。昔の渡良瀬川には今のような立派な堤防はなかったので洪水の度に河川の流れは大きく変わっていたようだ。現在の流路になったのは「足利興廃記」等の古い文書によると、中世末の永禄年間（一五五八～一五七〇）に4回大洪水があり、この時からと考えられている。

現在の足利赤十字病院がある競馬場跡地に今でも中川町の地番が一部あることからも、流路変遷が伺える。ここ山辺は、古来からの渡良瀬川の広大な河原の上に成り立っている。

緑橋上流でくの字に曲がる渡良瀬川
浅間山より

自分の身で考えよう。

地域包括ケアシステムとは？

安心の在宅生活には何が必要か

二〇二五年問題は団塊の世代が75歳以上になることから生ずる諸問題。特に医療・介護の側面では課題山積だ。

国として二〇〇〇年には介護保険の導入や高齢者福祉事業への民間投資を促す法整備が進められ、特養・老健・通所介護等の施設が多数設置されてきた。

しかし対象者の絶対数の増加は急速で、入院入所できる率は低下せざるを得ず、且つ国の社会保障費(年金・健保・介護保険・社会福祉等)は毎年一兆円ずつ増え、国債という借金は増える一方という。

昨年4月法改正され来年4月より施行される介護保険はより厳しい内容となった。即ち

一、国が関与していた介護予防、要支援1、2への対応は総合事業の名で市町村に委ねる。

二、特養入所は原則要介護3以上に

三、介護保険利用費は一律1割負担だったのが一定以上の収入者は2割負担に、等。

施設増に限界があり、行政の社会保障費は大赤字。ではどうしたらよいのか。現状国の方向は「在宅対応策」を手厚くして費用の増を抑え、且つ消費税増で赤字圧縮の方向、と言える。

在宅対応の主は「地域包括ケアシステム」の構築で、一人の高齢者に対する医療・介護・見守り・生活支援等の公助、共助バラバラに行われていたものを連携させることで、高齢者が安心して一日でも長く在宅生活できる支援の仕組み作りのこと。

現状では数年前より行政主導で包括支援センターがまとめ役となって掛かり付け医、ケアマネ、民生委員の間で連携会議がもたれてきている。

この狭義の会議としては「地域ケア推進会議」「高齢者支援地域ケア会議」「同・連絡協力会議」等があるが、現状は即対応の課題の多い「支援が無いと在宅は難しい」と思われる方々が対象となっている。

このケアシステムを実効あらしめるには、軽度な支援で日常生活が可能な高齢者や大多数の今お元気な介護予備軍の方々をも対象とする「在宅での日常に安心を与える要素」を包含した、裾野の広いシステムにしていくことが重要と考える。

この、どのような高齢者でも自宅で1日でも長く安心して生活できる「広義の包括支援ケアシステム」に必要なことを一高齢者として考えてみると、

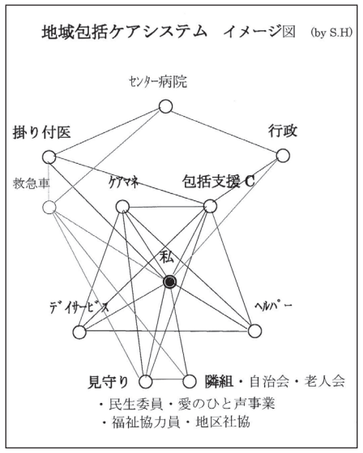
一、在宅医療技術の革新(地区社協だより50号参照)

二、自宅での異常発生時の発見システムの充実

三、確実な救急センター病院へのつなぎシステム

四、キーマンを通しての地域社会との連携、等が上げられる。

ここに隣組、福祉協力員、自治会、安心キット、サロン、老人会、地区社協等の地域共助が、広義のケアシステムに有機的に組み込まれてくるべきことの重要性が明確になってくる。



しめ縄を作りました

西新井町サロン

お正月を間近にひかえた11月中旬、西新井町ふれあい広場のメンバーが正月飾りのしめ縄作りに挑戦しました。講師は町内の須永和俊さん。三本のわらをまとめるのに四苦八苦し、ようやく世界で一つの作品が完成しました。平成28年は良い年でありますようにと願いながら帰宅しました。

(橋本記)

わらをまとめてしめ縄にしていく

医療福祉の最先端を訪ねて

大学にて地区外研修を実施

今年度の地区外研修は、大田原市にある「国際医療福祉大学」の訪問。大学にある先端的設備や人を育てる施設等を見学すると共に、これからの地域福祉のあり方について啓蒙活動をされている先生のお話を直接聞くことであった。

2月12日、41名の多数の参加の下に実施。車中では恒例の車内研修。地区社協の現況や、当日のテーマについて、資料でおさらいしつつ大学へ到着。

やや高台の広々とした敷地にゆったりと木々に囲まれて建築物が連なる。エントランスに案内される過程でお世話頂いた方から「ここのキャンパスは皆さんの山辺地区にあるアキレスとほぼ同じ広さです」とのモテナシ言葉にドキッ！

案内された学生用講義室で皆さん〝十年前の学生に戻って大学概要の案内を聴く。医学部を有しないのに大学病院を有する(塩原、矢板、東京、熱海の4病院)という特徴だったのが、来年には千葉県成田市に看護学部・医療学部の開設を予定しているという。正に民意の先を行く先端学術団体と感銘。

続いて医療福祉マネジメント学科准教授林先生の登場。昨年11月16日、足利市社協の福祉協力員スキルアップ研修で「これからの地域の助け合い」と題する講演を頂いた。(山辺からは最多の7名参加。もっと多くの人に聞いて貰いたい話、との思いから今回の研修を企画。)

当方の意を受けて窓口の川野様のご努力で、林先生の講義を特別に拝聴することができた。

感動の詳細は中々お伝えし難いが、「公助には限界があるだけに、共助・互助が如何に大切で、必要で、地域住民の支えになるのかを知ってほしい。山辺地区は市内では若い地区。是非地域での支えあいシステムづくりのモデル地区となってほしい」との先生の熱いエールには、「是非また足利での講演で応援を」と答え、関係する聴講仲間を若干紹介して今後の地区での活動と本日の御礼を申し上げる。

この後、一体百万もする模造人体が4体も横たわる看護実習室等広い学内の中でのポイント部分の見学に移った。

行き交う学生達のにこやかで優しい挨拶にこれまた感激。厳しい高齢者医療福祉の現実と将来に暗くなりがちな我々へは明るい光のように感じた。

国際医療福祉大学管理棟時計台の下にて

災害時の避難所では、何が起きてくる

活断層も少なく気象変動災害も今は少ないここ足利の地も、いつまた館林での竜巻災害や先日の常総市での鬼怒川沿いに発生した線状降水帯による水害等の渡良瀬水系での発生が起きるかもしれず、重大災害を予測した対応は市にも地域の自治会等にも求められている。

数年前より定期的に実施されている市社協の災害ボランティア講座は時宜を得たもので、地域団体役員層には是非受講頂きたい内容といえる。

秋元社長

李仁鉄さん

今回は非常食として3年は美味を保てるパンの缶詰を開発、世界の難民への援助も行っている那須のパンアキモト社長と過去の災害時に率先してボランティアネットワークを立ち上げてきた実績を持つ李仁鉄氏の講演と実習であった。

災害時に起る混乱の予測と即断即決が求められる対応には、このような研修を繰り返すことがとても大切だと改めて思った。